第１学年○組　道徳学習指導案

指導者　○○　○○

１　主題名　それぞれの立場に立って　Ｃ－（11）正義，公正・公平

２　資料名　両面の人（出典：明るい人生）

３　ねらい

　　誰に対しても公正・公平に考え，差別や偏見のないものの見方をしようとする気持ちを高める。

４　主題設定の理由

1. ねらいとする価値について

　　人は誰でも偏見のない社会を理想としている。しかし，人は，自分や自分の仲間を中心とした，一元的なものの見方や考え方をしがちである。相手側の立場から考えてみると，わがままで迷惑な場合がある。紛争や事件なども，互いの立場を主張し，譲り合えなかった結果であることが多い。利己心や狭い仲間意識をなくし，相手側の立場を考える広い視野をもつことは、公正・公平でよりよい社会を構築していくために大切なことである。

1. 生徒の実態

　　本学級の生徒は，「たてまえ」を気にせずに，自分の考え・本音を主張できる子がおり，元気がよく，明るい。しかし，学級での決め事をする際に，自分や仲のよい友達に都合のいい意見を押し通そうとする生徒もいる。日頃の生活の中でも，自分や仲間と考えが違う子に対して攻撃的になることがあるので，相手の立場に立って考えることができるようになってほしいと願っている。

1. 資料について

　　資料で扱うマンガは，生徒たちにはなじみが薄いもので，敵役の立場に立って考えることは，生徒たちにとっては，あまり経験したことがないことである。７月に参加した地域の行事「決戦場祭り」を想起させることで，身近なものとして考えさせたい。それぞれの立場を考えることで，一元的なものの見方から多面的なものの見方へと視野を広げることにつながるであろう。

５　本時の指導

1. 生徒のよさを生かした指導の手立て

　　生徒Ａは，自分の意見を主張でき，クラスでの影響力も大きい。基本的に自分がとるべき行動を理解しているが，仲のよい友達と一緒だと判断が鈍る時がある。自分の仲間に加勢して，他の子に厳しい言葉をぶつける時もあるので，正しい判断基準をもてるようになってほしい。生徒Ｂは，マイペースで周りが見えないこともあるが，人の意見は素直に聞き入れることができる。誰に対しても公正・公平に接することができるので，日頃の生活を振り返り，自分の考えをみんなに広めてほしい。

1. 評価

　・それぞれの立場を考えることが大切だと気づくことができる。（わかる）

　・それぞれの立場に立って，正しい判断をすることが大切だと気づく。（つなぐ）

　・いろいろな人の立場を考えた言動ができる。（生かす）

（３）準備　　教師：ワークシート

　　　 生徒：明るい人生，筆記用具

1. 展開

※意味を考えさせるが，難しいので例文を挙げて補足説明をする。

|  |  |
| --- | --- |
| 時間 | 学習活動　　　・予想される生徒の反応　※教師支援　◎評価 |
| 導入　　　　５ | １　公正について話し合う。公正とは，何でしょうか。・正しいことをすること。　・意味が分からない。 |
| 展開　　３５ | ２　本資料を読んで話し合う。※「わたし」が主人公の気持ちになってマンガを読んでいることに気づかせる。「わたし」の読むマンガがおもしろい理由を考えてみましょう。・主人公の影丸が，強くてかっこいいから。　　・敵を倒すとすっきりする。「決戦場まつり」では、連合軍役をやったけれど，武田軍は悪者でしょうか。※「物事を判断するときには，必ず両面を見ないとだめだ。」（例：平家と源氏の抗争，南朝と北朝の対立等）という本文を読み，決戦場まつりを想起させる。・先に攻めた方が悪い。　・どちらも領地を増やすために戦っているから同じ。３　自分の生活場面に置き換えて考える。仲のよい友達とクラスメイトが口げんかをしています。あなたは，どうしますか。※根拠も書かせるようにする。　　・何とかしたいけど，何もできないかもしれない。・仲のよい友達の味方をする。　　　・とにかく，けんかをやめさせる。・仲のよい友達から事情を聞く。　　・どちらの言い分も聞いて，判断する。本当にどちらの言い分も　 仲のよい子が悪かったら　　どうして「何もできない」聞くことができますか。 　どうしますか。　　　　　　のですか。　　　　　　　　　　　　　　　　　　・仲のよい友達の味方をするかも。・注意する。　　　　　　 ・まきこまれたくない。・何人かで事情を聞いた方がよい。・仲のよい子の味方をする。・どちらの味方になってもいけない。　　　なぜ仲のよい子の味方をするのだろうか。◎対立をしているとき，それぞれの立場を考えることが大切だと気づくことができたか。　 |
| 終末　　　　１０ | ４　公正についてもう１度考える公正について考えたことを書きましょう。・お互いを理解することが大切。　・自分がいつも正しいと思いこまない方がよい。 |